

新年あけましておめでとうございます！先月号で料理教室に通っていることで周囲をザワつかせた池澤です。皆さま、コロナ禍の中、どんなお正月を迎えられたでしょうか。感染者が減らずしばらくこのような状態は続くと思われませんが今年も職員一同頑張っ参ります。どうぞ宜しくお願いします！ 池澤滋

感染症情報 11/23~12/20	前回	今回
アデノウイルス	6	15
溶連菌感染症	7	3
感染性胃腸炎	102	135
水痘(水ぼうそう)	1	2
手足口病	0	20
RSウイルス	0	1
突発性発疹	28	18
りんご病	1	0
ヘルパンギーナ	1	2
腸管出血性大腸菌	0	0
インフルエンザA	0	0
インフルエンザB	0	0
おたふく風邪	1	2
カンピロバクター	1	1



実話

「目で味わうおせち」

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ



住所：合志市野々島 2461
(ユーパレス弁天 北側)
TEL：096-242-6633
診療時間：9：00～/14：00～18：00
休診日：木曜・土曜午後・日曜祝
URL：http://www.ikezawa.org/

『はじめましていけざわです ^ ^』



『はじめまして、池澤です。宜しくお願いします』

いつからか夫(院長)は初めての患者さんにはこう挨拶をするようになった。患者さん、というのは勿論、子どもたち。まだ、生後数日の生まれたての赤ちゃんにだって、こう挨拶している、んじゃないかな？
これまで、いくつものクリニックを見学し、診察風景を見せて頂いたが、このような挨拶をしている小児科医はあまりいない。整形外科や成人の内科では逆に患者さんの方が「宜しくお願いします」と言っている。私自身も大学病院や国立の受診でも「こんにちはー」はあるが「はじめまして」と言われたことはない。私はこの「こんにちは」と「はじめまして」に大きな違いを感じている。誰にでも使える「こんにちは」には承認力が欠けているのだ。相手への好意があまり感じられない。最初の印象がどれほど大切かをさほど気にしていない医師がどれほど多いだろう。もしかしたら、大学や国立はほぼ紹介での受診だから、町のクリニックとは意識が違うのかもしれない。

昔、飲食店で若い店員さんを相手に急に態度が大きくな

る人を見て、あれれ？となったことがある。人の器懐の深さや人間性はこうした何気ない日常に現れてしまうのだろう。我が子にもここは勘違いするな、と教えたい部分であるが、全員飲食店にアルバイトをした経験があるからか、外食の際は店員さんの気持ちがわかるようで、「お水、手があいたらお願いします」と一言付け加えたり、できる範囲で後片付けしたりする姿にはこちらが学ばされる。
さて、夫は3歳には3歳へ、赤ちゃんには赤ちゃんへ、その発達に応じた挨拶をしていることに最近気がついた。赤ちゃんに向かう時は少し体をすぼめて小さくなり「よろしくお祈りしましゅ」と言っている。先日、仕事が終わって『あれってどうなの』と笑う私に、本人は真顔で『何が？』と言っていた。傍からは冗談にしか見えないが本人はめっちゃくちゃ本気で挨拶しているのだ。これぞ小児科医！私は毎日心の中で拍手を送る。子どもが好きってこういうことなんだ、と夫に教えられているのだ。小さな患者様にご挨拶『いけざわです、よろしくお祈りしましゅ』
今日も夫は絶好調だ！その夫の雰囲気こそが、当クリニックの雰囲気作りの核となっているに違いない。



文責 池澤千恵子